



# 鈴蘭台駅周辺整備を考える会

発行 平成 7 年 10 月 17 日 編集 鈴蘭台駅周辺整備を考える会事務局

ニュース  
第4号

鈴蘭台駅周辺整備を考える会  
会長

田村達夫

阪神大震災の教訓を生かした

鈴蘭台駅周辺のまちづくりを!!

まさかよもやと思われたこの度の震度7という直下型大地震、戦時中の大空襲にも比すべき大災害、今回は市街地地底の活断層からの来襲でした。50年前の戦災復興もやっと終わり、新しい独自の魅力を持った街へ次々に新鮮かつ先導的なまちづくりの実績を築き上げてきたわが神戸が一瞬にしてかくも無残な姿に変貌しようとは、その甚大な被害額もさることながら積年の努力が水泡に帰ってしまったのではないのでしょうか。市当局はもちろん市民の私どもにとっても、まことに残念なことになってしまいました。よりによって神戸を標的に狙うなんて、自然の無情非情をただただ恨むばかりです。しかしながら市内の多くの被災各地区の復旧復興は一刻の猶予も許されない緊急事業であり、市区当局は焦眉の被害者の生活支援・仮設住宅等はいうまでもなく恒久的な被災各地区の復興のまちづくり、港湾・学校・道路・下水等諸施設の復興に懸命に取り組んでおります。すでに私どもが視察した六甲道駅周辺再開発の被災地区の復興事業もその一つです。

ところで鈴蘭台駅周辺の整備の問題ですが、ご承知のように「鈴蘭台駅周辺整備を考える会」も一年余りを経過し、ようやく軌道に乗りこれからが本番という矢先、運悪く今回の震災に遭遇したため市区当局は被災者の生活支援・被災施設の復旧・被災地区の復興まちづくりのため休日返上でその対応に東奔西走、私どもの鈴蘭台駅周辺の整備については、表面上一時中断のやむなきに至っております。しかし決して中止ではなく中断を余儀なくされているに過ぎません。この度の震災で防災安全面でその必要性は却って増大し、従来の計画で見直すべきところは見直す必要もあろうかと思えます。

これらの点を十分ご考察ご了承いただき、駅周辺の整備につきましては従前どおり引き続き格段のご協力とご尽力賜りますようお願い申し上げます。今後の進め方については市区当局と十分連絡相談の上できるだけ速やかに再開できますよう取り計らっていく所存でございますのでいましばらくご猶予いただきたくよろしくようお願い申し上げます。